

2024年8月2日 第3480回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 高橋 会長

<斉 唱> 「君が代」「奉仕の理想」

<ゲスト紹介> *SAJオリンピック強化指定選手 余郷 隆正 様
 *SAJオリンピック強化指定選手 余郷 さくら 様
 *浄土宗 宝蔵院 住職 余郷 有聡 様
 *米山奨学生 金 翰 隼 様

<ビジター紹介> *横須賀北ロータリークラブ 福嶋 義信 様
 *横須賀西ロータリークラブ 堀川 将史 様

<誕生月祝> *渡邊 磨 (S.44.8.3) *土田 匡明 (S.40.8.16)
 *寺田 義則 (S.55.8.17) *E. Robinson (S.38.8.19)
 *田中 由紀子 (S.53.8.24) *山下 和男 (S.40.8.27)
 *岩崎 次郎 (S.42.8.29) *谷 繁 信 (S.21.8.31)
 *八巻 敏博 (S.28.8.31)

各会員

<入会月祝> ・波島 頭明 ・佐久間 博一 ・岡 昌憲 ・野坂 英八
 ・宮島 才一 ・加藤 元章 ・小林 康記 ・齋藤 慎太郎
 ・西村 安彦 ・齋藤 秀人 ・曾我 宗光 ・濱田 恵里
 ・齋藤 隆 ・大石 朗 ・立石 文彦 ・児玉 信藏
 ・倉島 良孝 ・竹株 枝里

各会員

<会長報告> *ガバナー事務所より

・地区米山奨学セミナー／カウンセラー研修会開催のご案内

8月24日(土) 14:00～17:00 (受付13:30開始)

セミナー 14:00～15:20

カウンセラー研修会 15:30～17:00

<米山奨学生へ奨学金授与>

<委員長報告> *ローターアクト委員会

大野(健)委員長よりRAC例会(8月14日開催)のご案内

*出席委員会 臼井委員長より7月分出席報告 7月分平均出席率 77.78%

	会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
7月 5日	115名	110名	91名(5名)	19名	1名	83.64%
12日	115名	104名	66名(1名)	38名	4名	66.67%
19日	116名	108名	80名(4名)	28名	4名	77.78%
26日	116名	104名	72名(5名)	32名	5名	73.33%

<幹事報告> *例会後、国際奉仕プロジェクトテーマ検討会開催

<出席報告> *出席委員会 臼井委員長より8月2日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
116名	109名	80名(1名)	29名	1名	74.31%

メイクアップ： 椿会員 横須賀RAC出席

<ニコニコ報告>

- ・福嶋義信様(横須賀北RC) 猛暑お見舞い申し上げます。
- ・堀川将史様(横須賀西RC) 横須賀西RCより参りました堀川でございます。本日は横須賀RCを訪問できましたことを嬉しく思います。よろしくお願ひ申し上げます。
- ・三 役 SAJオリンピック強化指定選手 余郷隆正様、余郷さくら様、余郷有聡様、ようこそ

横須賀RCにお越し下さいました。本日の卓話も大変楽しみにしております！

- ・岩 崎、川 名、杉 浦、柴 田、梁 井、江 口、長 島、
小 澤、小保内、植 田、小佐野、松 本 剛、小 平、齋藤 眞、
澤 田、南、鈴木 豊、臼 井、濱 田、岡田 隼、前 田、木 村 各会員
SAJオリンピック強化指定選手 余郷隆正様、余郷さくら様、浄土宗法蔵院住職 余郷有聡様、ようこそお越し下さいました。卓話も楽しみにしております。どうぞよろしくお願いたします。
- ・三 役 米山奨学生 金 翰 隼様、本日の例会もごゆっくりお過ごし下さい。
- ・八 巻、梶 木、植 田、寺 田、齋藤 眞 各会員
米山奨学生 金 翰 隼様ようこそお越し下さいました。例会をお楽しみください。
- ・三 役 横須賀北RC福嶋義信様、横須賀西RC堀川将史様、本日の例会もごゆっくりお過ごし下さい。
- ・大 石、八 巻、新 倉、濱 田、佐久間、谷、上 林、徳 永、瀬 戸、
長 尾、野 坂、椿、齋藤 眞、吉田 隼、江 沢、前 田、鈴木 剛、小林 隼、
Loknath、八 木、江 沢、飯 塚、小 澤、長 尾、齋藤 眞、澤 田、
鈴木 剛、齋藤 眞、吉田 隼、比 護、勝 見、根 岸、田 邊 各会員
横須賀北RC福嶋義信様、横須賀西RC堀川将史様ようこそお越し下さいました。
ごゆっくりお楽しみください。
- ・渡 邊、寺 田、田 中、山 下、岩 崎、谷、八 巻 各会員 誕生月祝いとして
- ・佐久間、野 坂、宮 島、加藤 剛、小林 隼、
齋藤 眞、齋藤 剛、濱 田、大 石 各会員 入会月祝いとして
- ・4番テーブル梁井マスター、杉浦サブマスター 7月29日、雪園にて4番テーブルミーティングが開催されました。三役を含め13名にご参加頂き、美味しい中華料理、紹興酒と皆様の近況のご報告も含め楽しい会話を満喫させて頂きました。高橋会長には体調が十分でない中、ご挨拶を頂きありがとうございます。渡邊副会長、兼城幹事を含めご参加いただきました皆様ありがとうございます。
- ・角 井、江 口、谷、小佐野、高 橋、宮 島、臼 井、兼 城 各会員
7月29日(月)、モアーズシティ8階の雪園において4番テーブルミーティングが開催されました。紹興酒を飲みながら円卓を囲み、和気藹々とした楽しい会になりました。ご参加いただいた三役の皆様、梁井マスター、杉浦サブマスター有難うございました。
- ・7番テーブル小林(一)マスター、荻山サブマスター 昨日とりまるにて7番テーブルミーティングを開催しました。高橋会長をはじめ三役、SAA、三宅さんにもご出席いただき、大変楽しい会になりました。ご参加いただいた会員の皆さまありがとうございます。石田会員、日本酒の差入れ感謝です。
- ・石 田、八 巻、川 名、権 田、萩 原、新 倉、
高 橋、大野 剛、兼 城、藤 村、小山 剛 各会員 昨日、とりまるにて7番テーブルミーティングが行われました。ご参加いただいた高橋会長、渡邊副会長、兼城幹事、小山SAA、三宅さん、会場をご用意いただいた小林一博テーブルマスター、運営された荻山サブマスターありがとうございます。ウズラの玉子が最高でした。
- ・齋藤 剛 地区米山委員会委員長 地区米山委員会からのお知らせです。8/24(土)にカウンセラーセミナーを開催します。クラブ米山委員長のご参加も可能です。よろしくお願いたします。
- ・小 澤 会員 重度障がい者による歌のコンサートを開催いたします。障害を持つ方々が歌を通じて自分の想いを表現いたします。皆様と交流する素晴らしい機会です。
- ・岡田 隼、石 田、加藤 剛、上 林、三 井、濱 田 各会員
連日熱い戦いが繰り広げられているパリオリンピック！！「オリンピックには力がある人を、社会を、育む力がある オリンピアンの子カラを、もっと人へ、もっと社会へ」これがJOCの使命とのことです。

<卓 話>

スノーボードアルペンナショナルチーム
2023-2024シーズン報告と今後の活動について

S A Jオリンピック強化指定選手 余郷 隆正 様、余郷 さくら 様
浄土宗 宝蔵院 住職 余郷 有聡 様

1. 活動報告(2023/2024シーズン)

余郷 隆正 様

本日はよろしくお願いたします。余郷隆正です。まず、はじめに私たちがどういった競技をしているか動画を作成していただきましたのでご覧ください。

私たちの競技であるパラレル回転、大回転についてご説明させていただきます。左右に振られた旗に沿って滑るスポーツで、旗の間隔はパラレル大回転で22m、パラレル回転で13mほどとなります。大回転での最高速度は80km/hにもなることもあります。アルペンスノーボードというマイナーでわかりづらいと思いますが、スキーの回転や大回転を思い浮かべていただくとわかりやすいかと思います。競技では、予選を勝ち抜いた16人が決勝で2人同時にコースを滑ります。赤コースと青コースの両方のコースで滑り、その合計タイムで順位が16人まで決まり、決勝ではどちらが早くゴールしたかで勝敗が決まります。

それでは発表に移らせていただきます。皆さま、本日はお忙しい中、お時間をいただきましてありがとうございます。本日は2023年と2024年のシーズンを振り返りながら、スノーボードアルペンに少しでも親しみを持っていただければという思いで発表させていただきます。

はじめに、この場をお借りして、私のスポーツ人生の大きな支えとなっているスポンサー企業、並びにご支援いただいている皆さま方にお礼を申し上げます。ありがとうございます。とても力強い支えとなっております。私一人の力ではできないことも応援いただけることで挑戦し続けることができ、今シーズンも多くのことを学んで成長することができたと思います。こちらは現在のスポンサー企業と個人の皆さまです。

活動報告を始めるにあたり、私が競技を始めたきっかけについて紹介させていただきます。私は5歳の時から父に連れられてスノーボードを始めました。以来、スノーボードは私にとってちょっとした特技のような存在として関わってきました。中学、高校に進学した後は野球部とラグビー部に所属し、スキー場に足を運ぶ機会が全く無くなってしまいました。そして、ラグビー部を引退後、妹のさくらの競技活動を見て楽しそうだなと思い競技を始めたのがきっかけでした。徐々に目標が大きくなっていき、今はオリンピック出場を目指して活動しております。2019年に競技を開始し、2020年にジュニア世界選手権に出場、2022年にユニバーシアード出場といったところが概略の活動です。

次に活動報告に移らせていただきます。今シーズンを一言で表しますと、結果を残すために下積みを積んだ1年でした。今シーズンが始まる際に立てた、とにかく頑張る、というシーズン目標を基にトレーニングに打ち込んできました。シーズン中に行った血液検査では、疲労物質が基準値の10倍検出されることもあるなど、とても頑張ったシーズンになったと思います。まずはオフシーズンから説明させていただきます。昨年5月から10月までの半年間、カナダのウィスラーに留学しました。カナダはとても自然豊かで、左上の写真は私が実際に目の前で撮ったクマなのですが、そのような環境の中で、マウンテンバイク、ロードバイク、スケートボード、トランポリンなど様々なスポーツに取り組みながらトレーニングを楽しむことができました。また、冬のシーズンは大会経験を積むことに焦点を当てて活動してまいりました。スノーボードは、雪質や斜面、それから旗がどう振られているかなどに対応しながら滑ることが求められているスポーツであり、大会という緊張状態の中でこれらに対応して滑ることが非常に難しいのですが、そうした対応力は経験の中で培われると私は考えております。今年、ヨーロッパ、北米、中国、韓国にそれぞれ2回ずつ行きまして、計21戦に出場してまいりました。FISというオリンピックの正式な協会での私の生涯戦績が今シーズンを含めて52戦なので、今年21戦に出場したということは、半分近くを今シーズンに経験したことになります。ヨーロッパでは、ヨーロッパカップと全スイス選手権、北米ではノースアメリカンカップと全米選手権、中国と韓国ではアジアンカップに出場してまいりました。その中でも私が特に印象に残っている大会が、ヨーロッパカップと全米選手権です。なぜなら、ヨーロッパで技術的な成長が、そしてアメリカで精神的な成長ができたと考えているからです。まず、ヨーロッパカップの説明からさせていただきます。もともとスノーボードアルペン競技の発祥がドイツ語圏ということもありまして、非常にレベルが高く、決勝

に残ること、つまり16人に残ることも難しい大会です。このシーズンは、大会の1ヶ月前である11月から現地ワールドカップチームに同行させていただきながら練習を行うことができました。今回はそのワールドカップチームのコーチであるリチャードコーチに教わることができました、世界のトップの技術を吸収することができました。そして彼は外国人らしく、素直に滑りを評価してくれ、言われたことと違う動きをしたときには“ノー”と、強く怒られました。しかし、私が良い滑りをしたときは一緒になって喜んでくれて、良いコーチに出会えたと思っております。次に全米選手権についてです。この大会では、なかなか結果を出せない大会が続いている状況で、自分の中で勝ちたいという気持ちが強かった大会でした。予選1本目で大きく失敗してしまったのですが、2本目で立て直すことができ、決勝1本目ではオリンピック出場経験のある選手と戦って勝つことができました。私としては、勝ちたいという感情が良い滑りに繋がったかなと考えております。また、この全米選手権は大きな気づきのきっかけにもなったかなと思っております。その気づきは覚悟を持って大会を挑むことでした。大きなミスがあってもしょうがないな、とか、大会が始まる前から負けてもしょうがないから、などと、それまでは弱気で挑んでいたのですが、それがいつからか負け癖に繋がっていたのかな、と自分では反省をしております。特にスポーツの世界では、「心技体」それぞれを鍛えるという言葉がありますが、良いアスリート、勝てるアスリートになるためには「心技体」全ての成長が必要で、このシーズンではその3つをしっかりと学ぶことができたかなと思っております。冒頭にも映像をお見せしたのですが、これがオリンピック出場経験のある選手との滑りの映像です。最後の0.1秒あるいは100分の1秒あるかないかで、ぎりぎり勝てたかと思えます。改めまして、ヨーロッパやアメリカでは大きな成長を感じることができました。

この理由としては、海外の環境がとて素晴らしいという点があります。中でも、ヨーロッパではEUに加盟している国がほとんどであるため、陸路で多くの国に移動することができ、多くの大きな大会に出場することができます。また、日本のスキー場と違って北向きの広い斜面が多いので、太陽が当たりづらく雪質も良いです。さらに、各国の強化選手とともに練習できる機会が多く、海外にはアルペン競技を行う上で最高の環境が揃っていると考えております。しかし、遠征費が高いというデメリットもあります。例えば、ヨーロッパの国々を移動するとき、一度に1000kmを移動することもあります。現在、ロシアとの戦争でガソリン代が非常に高くなっていて、ヨーロッパはその影響を直接受けているので。また、長期間レンタカーを借りること自体、お金がかかってしまい、経済的には厳しい条件となります。

今後の活動目標をお話しさせていただきます。来シーズンは、今シーズンの勝つための下積みを積むという目標になぞられて勝ちにこだわるシーズンにしたいと思えます。また、大会経験を積むシーズンから、勝利経験を積めるシーズンにしようと思っております。また、来シーズンの定量目標として、全日本選手権での3位以内の入賞、ワールドカップの出場基準のクリア、定性目標として、世界で戦える滑り、自分の強みを生かす滑り、を設定して頑張ってもらいます。そして最終目標として、ここにミラノと書きましたが、次のオリンピック出場を目指して活動しております。

最後に、本日はお忙しい中お時間を作っていただきありがとうございます。スポーツの世界には、人のために勝って一流という言葉があります。その言葉を胸に毎日トレーニングに励みながら頑張ってもらいます。このような場を設けていただいた岩崎社長、ご尽力いただきありがとうございます。そして皆さま、ご清聴いただきありがとうございます。

2. 2023-2024活動報告

余郷 さくら 様

皆さま、こんにちは。余郷さくらです。本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。まずはじめに私のプロフィールと戦歴について紹介させていただきます。私は2003年4月8日生まれ、現在21歳です。横須賀生まれ、横須賀育ちです。現在は法政大学経営学部にて在学しております。私は3歳の時に父の影響でスノーボードを始めました。そして、中学1年生でスノーボードのレースを始め、高校3年生の時に全日本ジュニア選手権で優勝し、ジュニア世界選手権に出場しました。大学入学後は1年間休学し、カナダのウィスラーにて半年間留学しました。冬の間は基本的にヨーロッパで練習し、その年は全日本で準優勝をすることができました。現在は大学2年生でSAJオリンピック強化指定選手として活動しております。

早速、2023、2024年の活動報告を始めます。まず私のスノーボードの目標についてご説明します。私の目標はオリンピックに出場することです。私は中学1年生の時にアルペンスノーボードのレースを始め

ました。大会に出てパラレルで勝つことが楽しく、いつかオリンピックに出てみたいと感じたことがきっかけです。今はその目標に向けて日々トレーニングを行っております。次に、今シーズンの目標と成果についてご説明します。今シーズンは、2つの目標達成に向けてオフシーズンからトレーニングを行いました。1つ目の目標はフィスポイントを150ポイント獲得すること、2つ目は全日本選手権優勝という目標です。フィスポイント150ポイント獲得という目標は、来シーズンに行われる学生のためのオリンピックと言われているユニバーシアード出場に向けて設定したものととなります。日本人の女子大学生のポイントランキングで3位以内に入るための目安として150ポイントと設定いたしました。2つ目の全日本選手権優勝は、先シーズンの全日本選手権で優勝を逃してしまい準優勝に終わってしまったことが悔しく、優勝したいという思いが強かったため目標に設定しました。結果としては、フィスポイントを95.7ポイント獲得しました。全日本選手権は予選2本目の転倒により途中棄権という結果となりました。

次に、オフシーズンの活動報告です。オフシーズンでは4月から大学に通い始め、学校の隙間時間を活用してトレーニングを行いました。4人のトレーナーに指導していただき、週6日間トレーニングを行いました。これらのトレーニングを6月から始め、シーズンインする12月まで行いました。また、夏休みにはニュージーランド合宿にも参加しました。1ヶ月間マウントハットにて雪上トレーニングを行い、下山後はチームでフィジカルトレーニングを毎日行いました。充実した環境でトレーニングを行ったため、冬に向けての滑りの基礎が定着し、フィジカルレベルを向上させることができました。以上がオフシーズンの活動報告となります。

次にオンシーズンの活動報告です。今シーズンは、12月中旬に中国にてシーズンインをしました。計8回の国内外の遠征で合計19レースに参戦しました。本日は、1月の国内での練習の取り組みと印象に残っている2つの遠征について取り上げてご説明します。まず、1月は大学の試験期間に入ってしまったため、学校に通いながら国内で練習を行いました。2月から始まる遠征と初戦に備え、なるべく多く滑走練習をしたかったため、試験日の合間に長野まで新幹線で通い、雪上練習を行いました。また、私の所属しているSAJの合宿にも参加しました。この合宿では、同レベルの選手とパラレルの練習、大会と同じスタート台を使ったスタートの練習、また、ドローンを使って上空から撮影し、滑りの分析などを行いました。この合宿では、普段の練習ではできないような練習がたくさんでき、刺激を受けとても良い練習となりました。2月からは遠征が続き、たくさん大会経験を積むことができました。本日は皆さまのおかげで実現できました2つの遠征を紹介します。1つ目は3月に行われた全日本選手権です。全日本選手権はオフシーズンからずっと優勝を目指してトレーニングを行ってきた大会だったため、私の中では特別な存在でした。しかし、コンディションが優れず予選2本目で転倒してしまい途中棄権という結果となってしまいました。今年は2月から遠征が始まっていましたが、この全日本選手権にピークを合わせて練習していたため、転倒により途中棄権となってしまい、とても悔しかったです。しかし、大会のルーティンの見直しや体調管理の仕方について改善する良い機会となりました。2つ目の印象的な遠征は、今シーズン最後のアメリカとスイス遠征です。アメリカの大会は、カッパーマウンテンという標高が3000m以上あるスキー場で行われました。初めての高山での生活であり、始めのうちは体調管理に精一杯でしたが、すぐに慣れ、万全の体調で大会に挑むことができました。2日間大会に出場し、両日ともに決勝1本目を勝ち上がることができました。2日目は予選を4位、決勝で1本目を勝ち上がりましたが、決勝2本目で負けてしまいました。今でもとても悔しく思っております。しかし、予選1本目で練習通りの滑りができ、実力を発揮できたことが、予選4位につながったと感じております。アメリカの大会後はすぐにヨーロッパへ移動し、スイス選手権に参加しました。この大会はスイスのワールドカップのトップ選手も参加していて、とてもレベルの高い大会でした。大会には2日間出場し、2日目がとても印象に残っております。この大会は非常にコースが長く、1分を超えるコースだったのですが、夏のインターバルトレーニングの成果もあり、最後のゴールまで全力で滑り切ることができました。夏のトレーニングの成果を身を持って感じることもできたことが、私にとって一番嬉しかったです。

シーズンを通して感じたことについてですが、今まではゴールするのに必死だったレースも決勝まで勝ち上がって戦えたこと、長く難しいコースを100%で滑ることができたこと、予選1本目から実力を出し切れたことが、今シーズン成長できたことだと感じております。

来シーズンに向けてです。今シーズンの大会経験を踏まえて、来シーズンの目標は、アジア、北米の大会でベスト4、全日本選手権優勝です。早速、私は今週末より1ヶ月間、ニュージーランド合宿へ行きます。

最後に、本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。ご清聴いただきましてありがとうございました。

3. 横須賀市スポーツ選手応援事業について

余 郷 有 聡 様

浄土宗、宝蔵院の住職をしております余郷と申します。うちの近くでは先週300人ほどの選手が出場する全国で一番大きいウィンドサーフィンの大会が開かれていました。11月にはワールドカップが開かれます。目の前にそのようないい大会があるのに、何で4時間も5時間もかけて雪のあるところまで行くんだ、あるいは海外まで行くんだということなんですけれども、本人たちが選んだことなので親として応援しております。皆さまもご承知の通り、今、移動あるいは遠征に非常にお金がかかるんですね。昨年の実績で一人あたり860万から900万円くらいかかりました。3分の1くらいはスポンサーさんからのご支援をいただいております。非常にありがたいことに、横須賀市が2人を応援してくださっております。皆さまのお手元に配布しました資料の最後のページに記載されていますように、横須賀市がふるさと納税を使って2人の選手を応援しようじゃないかということで、上地市長からも応援をいただいております。黒い方のスノーボードには横須賀市のステッカーも貼っております。このステッカーを貼って世界で戦っております。実際のご支援の方法ですが、配布しております2枚の紙をご覧ください。横須賀市内企業用と個人用とが表と裏になっております。企業でご支援いただく場合、横須賀市の場合は横須賀市の企業が支援しても節税にはならないんですね。横須賀市外に本社がある会社の方は節税になって90%減免されるということです。個人の方の場合は、横須賀市に住んでいても全て個人が納税したと見なしていただきます。通常、ふるさと納税は3割のバックがあり、返礼品がありますよね。しかし我々の横須賀市のものには返礼品はありません。ですが、2人を応援してくださっている後援会が静岡にあり、ご希望であればそこから3割から最大4割をバックしますよということが最後のページにも書いてあります。市外の企業については90%税金が免除されますので、本当に横須賀市はありがたい制度をつくってくださって、本人たちの活動の一助になっていると思います。本日は経営者の皆さまが大勢いらっしゃるということで、2人も緊張した場だったと思うのですが、これも良い経験になったと思います。大変良い貴重な時間を頂戴いたしましたこと皆さまに感謝申し上げます。今後ともどうぞ応援お願いいたします。



<閉会・点鐘> 13:30 高橋 会長

週報担当 梁 井 康 市